

II 豊橋市の社会的・経済的条件

(防災危機管理課)

本市は、わが国のほぼ中央部、愛知県の東南に位置し、東は赤石連山で静岡県に境を接し、南面及び西面はそれぞれ海岸に臨み、市域の北西部を貫流する水量豊かな豊川流域は沖積層に覆われた肥沃な低地をかたちづくり、温暖な気候とあいまって、豊橋の風土を象徴しているかのようである。

東三河の中核となっている本市は、江戸時代に城下町、宿場町としてその集落の基礎が形成され、やがて明治39年8月1日市制を施行し、当時は面積約20km²、人口約3万8千人であったが、昭和7年に隣接1町4か村を吸収して以来、生糸の町、軍都として一途に発展した。

しかし、戦禍によって市街地の9割余りが焦土と化した終戦直後は人口約10万人に一時的に減少をみせた。この痛手も不屈ともいうべき市民の努力と画期的な都市復興区画整理事業の完成により、戦前をしのぐ都市づくりに成功し、昭和30年には石巻、二川、高豊、老津、前芝、杉山、賀茂の1町4村2大字と合併し、市域も広まり全国有数の都市となった。令和2年の国勢調査の人口は、371,920人で平成27年のそれと比較し、2,845人、約0.8%減となっている。

本市は、昭和38年7月東三河が「工業整備特別地域」に、昭和39年4月には三河湾が「重要港湾」に指定され、昭和47年5月には待望の「豊橋港」が開港し、臨海部の用地造成も昭和48年5月大崎地区明海町の誕生以来着々と進んでおりその他道路網、運輸通信施設の整備、工業用水の確保等工業基盤が整備促進され、都市化工業化に向かって急速に進展している。

一方、快適な市民生活ができるよう、上下水道、緑地等生活環境施設、公害対策等を完備充実するとともに土地改良事業、豊川用水事業等農業基盤の整備、中小企業振興対策等農工商の調和のとれた発展を図り、諸々の事業とあいまって豊かで明るく住みよい「豊橋」をめざしている。

平成11年4月1日には中核市に移行し、地方分権の推進、そして地域の中核として力強く前進している。

また、平成18年には市制施行100周年を迎えた。「とよはし100祭」と名づけられた記念事業は、平成17年8月の「太陽の開幕祭」で始まり、平成18年12月の閉幕式「+ネクスト100」まで、1年5か月にわたって展開され、多くの市民が参加した。

そして、平成28年には市制施行110周年を迎えた。記念事業が行われるとともに東三河8市町村で「海フェスタ東三河」を開催、また「あいちトリエンナーレ2016」の会場の一つとして豊橋市で初めて国際芸術祭が開催された。新たな魅力や活動を生み出すきっかけの年として、次の10年に向けこれまで以上にいきいきと輝く一歩を踏み出した。